

迎春

— 令和四年新年のごあいさつ —



都城市長

たか ひさ

池田 宜永

明けましておめでとうございます。皆様には日ごろから、新型コロナウイルス感染症防止などにご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。昨年、医療関係者の皆様のご協力をいただいた「新型コロナウイルスワクチン接種」をはじめとする感染防止対策や、「都城市プレミアム付スマイル商品券（第2弾）」などの経済対策に迅速に取り組んでまいりました。まずは、本年も引き続き、新型コロナウイルス感染症防止対策に万全を期してまいります。そうした中、本市では、これまで

「本市が持つ3つの宝」を輝かせる取り組みと併せて、さまざまな施策に取り組んでまいりましたが、3つの宝の一つ「農林畜産業の振興」では、食糧供給都市としての体制強化などに取り組む、昨年、農林水産省から公表された「令和元年市町村別農業産出額（推計）」で本市が産出額877億円で日本一となりました。また、「地の利の拡大」を図る施策として、都城志布道路の整備を推進してまいりましたが、官民挙げて国や県への要望活動などを積極的に行った結果、令和3年度には計画の8割が開通し、令和6年度には都城ICから志布志ICまでが一気通貫でつながる（9割開通）予定であります。さらに、本市の対外的なPRツールとして強力に取り組んでいる「ふるさと納税」につきましては、令和2年度の寄附金額が約135億2500万円となり、3度目の日本一となりました。皆様から頂いたご寄附は、子ども医療費助成の拡充など、多くの事業に活用しております。

さて、本市では、令和3年度からデジタル統括本部・デジタル統括課を新設し、デジタル化の恩恵を市民の皆様にお届けするべく、デジタル関連の「予算・組織・人材」すべてを大幅に拡充し、デジタル化の推進に取り組んでいます。中でも、デジタル社会のインフラとなるマイナンバーカードにつきましては、総務省が全自治体に推奨している「タブレット申請補助・出張申請」（通称・都城方式）を行うことにより、交付率が71・1%（令和3年12月1日現在）と全国的にも非常に高いレベルとなっておりますが、引き続き、しっかりと取り組んでまいります。また、令和9年に宮崎県で開催される国民スポーツ大会において、メイン会場となる「新宮崎県陸上競技場」につきましては、県と連携して着実に整備を進めてまいります。私としましては、本年もさまざまな施策にこれまで以上にスピード感を持って前向きにチャレンジし、「南九州の拠点都市」「リーディングシティの確立」と「笑顔あふれるまち」スマイルシティ都城の実現に向け、引き続き、本気で挑戦してまいりますので、皆様のより一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。最後にありますが、本年が皆様にとって幸多き一年でありますことをお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。